2021/9/16-1
（オマケの英語教室 summary）書庫版

辞書を置かない考える英語教室「前座の英語」
も第 4 集目。
1 集平均 15 本の記事が掲載されておりますが、その中で皆さんが既にご存じの単語が平均 4 語。
ですので「4 集」X「15 本の記事」X「1 本当たり 4 語出現」
としますと既に
4x15x4=240 の単語が出ていた事になります。
本書は敢えて皆さんご存じの単語を選んで使っておりますので、換言すれば皆さんは既に 240 もの英単語ご存じだと云う事にもなります。
知っているのに使っていない。平たく云えば「宝の持ち腐れ状態」
ですが
「そういった単語を耳にした事はあるがスペルが分からない」
と言う方もいらっしゃるかと思います。
しかし、在日外国人の方は、漢字は書けないけれどその言葉を耳にすれば意味だけは分かる場合が多々あります。
というより殆どがそのパターンです。
当店の外国人従業員は「お客様」という漢字は書けないし、読めませんが「okyakusama」と発音すれば直ぐに意味が分かります。
と言う事は、スペルは書けなくても発音さえ出来れば「英会話の第一要件」は満たしている事になります。即ち「単語でなら話せる」
では次に何を満たせば第二 step に移行できるか？と申しますと今度は「語順」です。
突然「語順」と云われても…という方もおられるかと思います。
なので、こういう話から入ろうと思います。
「日本語は誰が話しているのか（主語）が分からない場合もあるし、結論である（述語）が

一番後に出てくる言葉の並び、即ち語順になっている。そうしてその間にてんこ盛りでいろんな話がくっつくのが日本語。場合によっては結論、即ち述語がない場合すら在るのが日本語」
それに対して
「英語は誰が話しているか（主語）がはっきりしており、結論、即ち述語（動詞）がその主語の直ぐ後に来るのが一般的は言葉の並びになっていて、話が割合と明確になる様に出来ているのが英語」
そうしてその後
「誰（何）に、へ、等という（目的語）が続き、更にその後に、その誰や何が、する事やその状態がどうであるかを補う（説明する）言葉である（補語）が来るのが英語の言葉の並び即ち（語順）になります」
と。
是を中学では S+V＋O+C＝Subject（主語）+Verb（述語動詞）+Object（目的語）+Complement（補語）と習います。
勿論 S+V や S+V+O だけの文もあります。
因みに日本語は S+O+C+V の語順が一般的です。同じく O や C がない文もあります。
英語と日本語の語順比較の例文を載せておきます。
英語：I know you to love a curry（私は（S）＋知っている（V）＋あなたが（O）＋「カリー」好きなのを（C））
日本語：私は（S）あなたが（O）「カレー」好きなのを（C）知っている（V））
まずはここ迄理解する事で細かい事を抜きすれば誰でも「相当」英語が話せる様になります。
そして大切なのはむしろ発音です。
流暢である必要はありませんが、
日本語風で話す時も一例で「カレー」ではなく英語発音の「カリー」と言うのを心掛けるといいかと思います。
以上まとめ(summary)でした。